

# Measure of bystander intervention in bullying and sexual harassment の日本語版の作成

○藤原千鶴<sup>1</sup>・赤澤淳子<sup>1</sup>・井中野美奈<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup> 福山大学人間文化学部心理学科)

## 研究の目的

2023年度のいじめの認知件数は730,000件を超える(文部科学省, 2024)。また16~24歳の26.4%が性暴力被害に遭い, その多くが学校現場や学校関係者から被害を受けたと報告した(内閣府, 2023)。これらの問題は多数の人の目に触れる学校で起きているため, 傍観者の介入がいじめ予防の有力な手段となることが考えられる。

これまで, 傍観者の研究は傍観者効果(Latané & Darley, 1968)の研究を筆頭に行われてきた。また, Latané & Darley (1970 竹村・杉崎訳 1997)は傍観者介入モデルを通して, 問題に介入するまでの5つの連続したステップ(①出来事に気づく, ②非常事態と判断する, ③助ける責任を持つ, ④援助の知識がある, ⑤介入する)を概説した。一方で, 適切な尺度がないため学校場面での傍観者の研究の多くはこの理論に従っていなかった。そのためNickerson et al. (2014)は傍観者介入モデルを基にBystander intervention in bullying and sexual harassment(以下, BI尺度とする)を開発した。

BI尺度は, 傍観者介入モデルの5つのステップに対応した5因子(16項目)から構成されており, 学校での問題に対応している。これまで国内でも学校場面での傍観者の研究は行われているが(e.g., 西野・若本, 2022), 傍観者介入モデルに基づいた測定ツールは開発されていない。

そこで, 本研究では, BI尺度の日本語版を作成し, その因子構造と妥当性, 信頼性を検討することを目的とした。日本語版BI尺度の作成は, 学校場面での傍観者の研究に貢献できると考える。

## 方法

**参加者** 高校生を対象にオンライン上で実施した。本調査に適切に回答していた258名(男性99名, 女性153名, その他の性6名)を分析対象とした。平均年齢は16.64歳( $SD = 0.97$ )であった。

**尺度翻訳** Diane et al. (2005)のガイドラインに沿ってBI尺度の翻訳を行った。まず, 原著者に翻訳許可をとり, 著者と研究協力者の合計3名が独立して翻訳を行った。次に3つの訳を1つに統合して日本語案とし, 翻訳業者にバックトランスレーシ

ョンを依頼した。その後3名でレビューを行い, 大学生12名を対象に認知的デブリーフィングを行うことで日本語表現の修正を行った。以上の手順で作成した尺度を日本語版BI尺度(16項目)とし, 原版と同じく5件法での回答とした。

**調査内容** ①フェイスシート(年齢, 性別) ②傍観者介入モデル: 日本語版BI尺度(16項目, 5件法)

**分析方法** 統計ソフトAmos for Windows Ver.21, IBM SPSS Statistics 24を用いて分析を行った。

**倫理的配慮** 福山大学研究安全倫理委員会の承認を得て実施された(2024-H-40-05号)。

**利益相反** 演題発表に関連し, 開示すべきCOI関係にある企業はない。

## 結果

まず, 原版と同じ5因子構造のモデルを想定し, 確証的因子分析を行った。その結果,  $\chi^2(90) = 143.54, p < .001, GFI = .94, AGFI = .90, CFI = .96, RMSEA = .05$ , 各因子の $\alpha$ 係数は「出来事に気づく」= .70, 「非常事態と判断する」= .56, 「助ける責任を持つ」= .62, 「援助の知識がある」= .77, 「介入する」= .79と, 適合度も信頼性も概ね高い結果となった。5つの変数間の相関をTable 1に示した。

Table 1 変数間の相関

	出来事に 気づく	非常事態と 判断する	助ける責任 を持つ	援助の 知識がある	介入する
出来事に気づく		-.03	.05	.01	-.12
非常事態と判断する			.29**	.08	.17**
助ける責任を持つ				.55**	.47**
援助の知識がある					.62**
介入する					

\*\* $p < .01$

## 考察

Nickerson et al. (2014)と同様の5因子が確認でき, 適合度も $\alpha$ 係数も概ね高い数値を示した。しかし, 本研究においては「非常事態と判断する」因子の $\alpha$ 係数が低かったが, 因子を構成している3つの項目のうち, 項目4を除いた場合の $\alpha$ 係数は.76と高い数値を示した。項目4は被害者がサポートを必要としているかどうかの判断であるが, その他の項目(項目5, 6)は被害者のダメージに関する内容であるため, 質問内容の違いが $\alpha$ 係数に影響を与えた可能性がある。